

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
剰余金の配当基準日 3月31日 (中間配当を行う場合は9月30日)
定時株主総会 毎年6月下旬
株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵送物送付先	お取引の 証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00～17:00)
各種手続取扱店 (住所変更、株主配当金 受取り方法の変更等)		みずほ証券 本店および全国各支店 プラネットブース (みずほ銀行内の店舗) みずほ信託銀行 本店および全国各支店
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行およびみずほ銀行の本店および全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります。)	
ご注意	支払明細発行については、 右の「特別口座の場合」の 郵便物送付先・電話お問い 合わせ先・各種手続取扱 店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買 取・買増以外の株式売買はできま せん。証券会社等に口座を開設し、 株式の振替手続を行っていただく 必要があります。

公告の方法 電子公告により行います。
公告掲載URL <http://www.irom-hd.co.jp>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。)

■ 株主様のご住所・お名前等に使用する文字に関してのご案内
株券電子化実施に伴い、株主様のご住所・お名前等の文字に、株式会社証券保管振替機構(ほふり)が振替制度で指定していない漢字等(いわゆる「外字」)が含まれている場合は、その全部または一部をほふりが指定した文字またはカタカナに変換して、株主名簿に記録いたしております。
このため、株主様にご送付する通知物の宛先が、ほふりが指定した文字に置き換えられる場合がありますのでご了承ください。株主様のご住所・お名前等として記録されている文字については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

株式会社アイロムホールディングス

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-14-37
<http://www.irom-hd.co.jp>

単元株式変更のご案内

当社では、平成25年10月1日より、単元株式数を1株から100株に変更いたします。

単元未満株式の買取および買増制度について

当社では証券市場で株式を売買できる取引単位(単元株式)を100株とするため、単元未満株式(1～99株の株式)については、証券市場において売買することができなくなります。そのため、当社では、単元未満株式の買取・買増請求制度を採用いたします。

【買取請求】
100株未満の株式を当社に対して市場価格で売却できる制度
【買増請求】
100株(単元株)に不足する数の株式を当社から市場価格で買い増し、単元株にすることができる制度
【お手続きの詳細】
お取引先の証券会社等にお問合せください。[特別口座]にご所有株式が記録されている株主様はみずほ信託銀行にお問合せください。
【買増請求受付停止期間】
決算期(3月31日)、中間決算期(9月30日)または権利確定のために設けられる基準日の10営業日前の日から決算期、中間決算期または基準日までの間は、買増請求の受付を停止いたします。

単元未満株式の買取制度を利用

単元未満株式を当社に対して市場価格で売却する制度です。



単元未満株式の買増制度を利用

単元未満株式を当社から市場価格で買い増しして、単元株式とする制度です。



第16期 報告書

平成24年4月1日 ▶ 平成25年3月31日



I'ROM
HOLDINGS

Quality of Healthy Life



株式会社アイロムホールディングス

証券コード：2372

株主の皆様へ

謹啓 平素はひとかたならぬご支援とご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は平成9年、新薬を少しでも早く世の中へ届けるため、臨床試験（治験）実施医療機関の支援を行うSMOの事業モデルをどこよりも早く構築するべく創業いたしました。以来、収益の基盤であるSMO事業に加え、クリニックモールの開設・運営等を行うメディカルサポート事業を展開しております。

今後は、国内の既存ビジネスを軸とすべくSMO事業に経営資源を集中し、また、アジア・オセアニア地

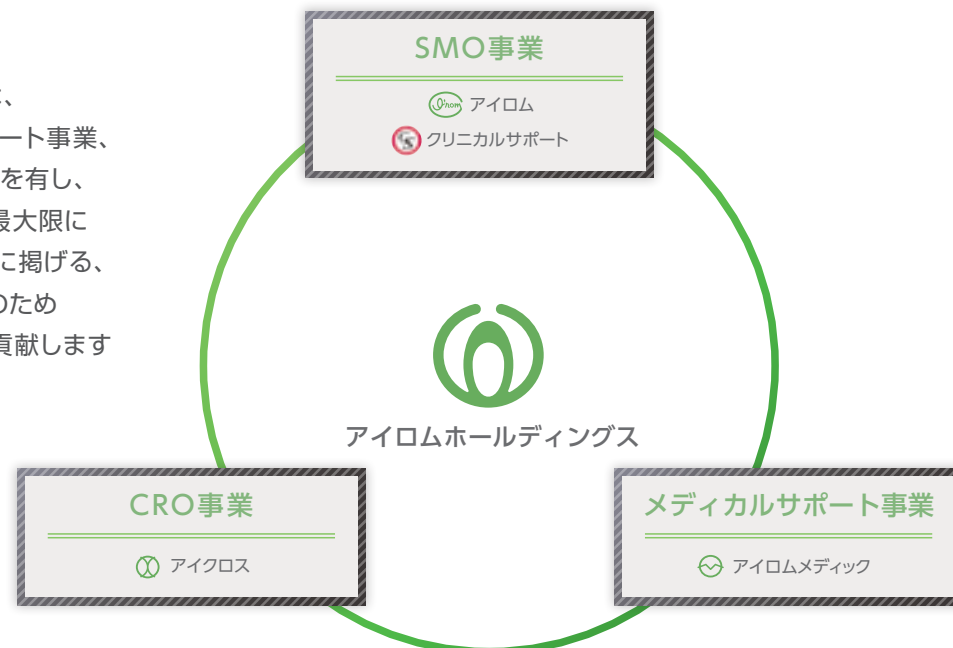
域における高度専門医療機関および企業との提携並びに先端医療分野における新たな市場開拓を見据えた体制の構築を進め、企業価値の増大を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援、ご高配を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

謹白

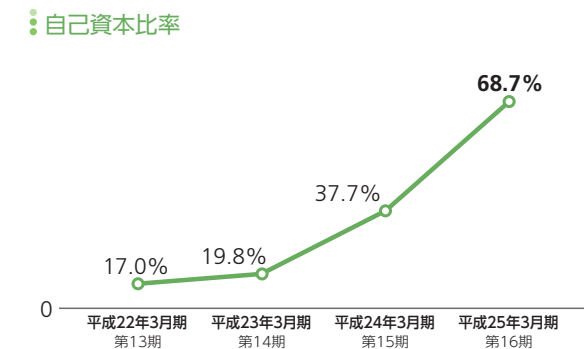
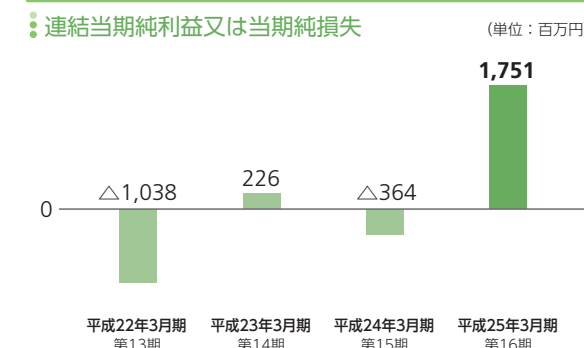
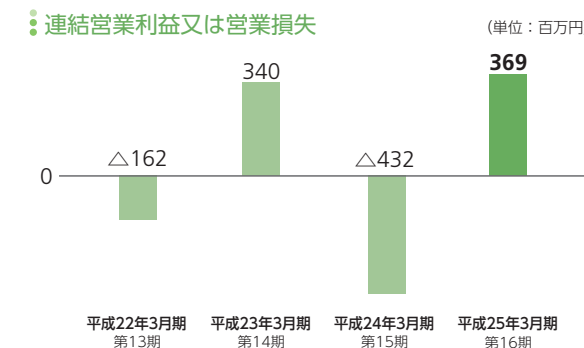
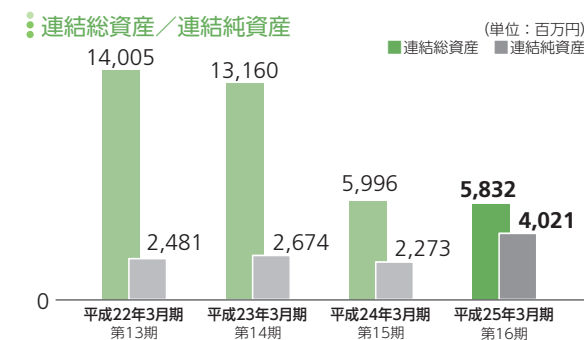
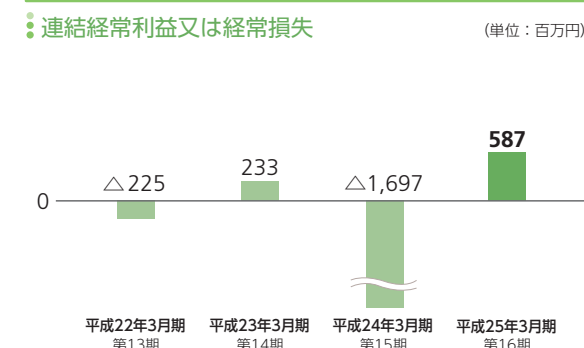
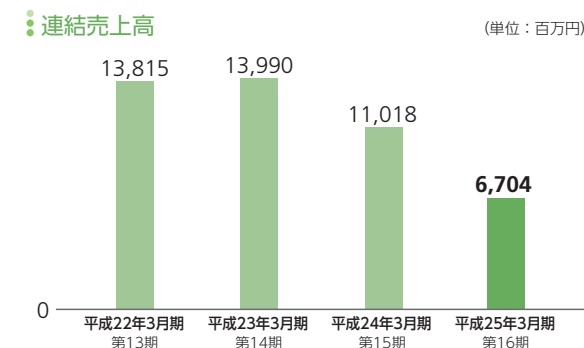
代表取締役社長 森 豊隆

アイロムグループは、
SMO事業、メディカルサポート事業、
CRO事業の3つの事業体を有し、
そのグループシナジーを最大限に
活用しながらグループ理念に掲げる、
生活者の QOHL向上のため
次代の「統合医療」発展に貢献します



用語解説 SMO Site Management Organizationの略で、一般的に治験施設支援機関と言われ、治験を実施する医療機関と提携し、治験を実施するための院内体制整備および治験実務を支援する組織です。

財務ハイライト



平成23年11月30日付で医薬品等の製造販売事業を担う連結子会社の全株式を譲渡いたしました。
平成24年12月1日付で医薬品等の販売事業を事業譲渡いたしました。

用語解説 CRO Contract Research Organizationの略で、一般的に医薬品開発業務受託機関と言われ、治験依頼者（製薬企業）の治験に関わる業務の全部または一部を代行および支援する企業を指します。

平成25年3月期の業績・次期の業績見通し

利益面で大幅な改善となりました。

■ 平成25年3月期の業績

当社グループでは、平成24年12月1日に医薬品等の販売事業を譲渡し、一層SMO事業に注力する体制を整えてまいりました。また、細胞治療・再生医療等の先端医療技術を保有する企業およびアジア・オセアニア地域における臨床研究/臨床試験に関わる企業との戦略的パートナーシップ契約を締結するなど、強固なアライアンスを構築することにより、ハイブリッド型サービス(※)など新たなビジネスモデルの創出を目指しております。

その結果、当連結会計年度においては、売上高は6,704百万円(前期比39.1%減)、営業利益は369百万円(前期は営業損失432百万円)、経常利益は587百万円(前期は経常損失1,697百万円)当期純利益は1,751百万円(前期は当期純損失

364百万円)となりました。

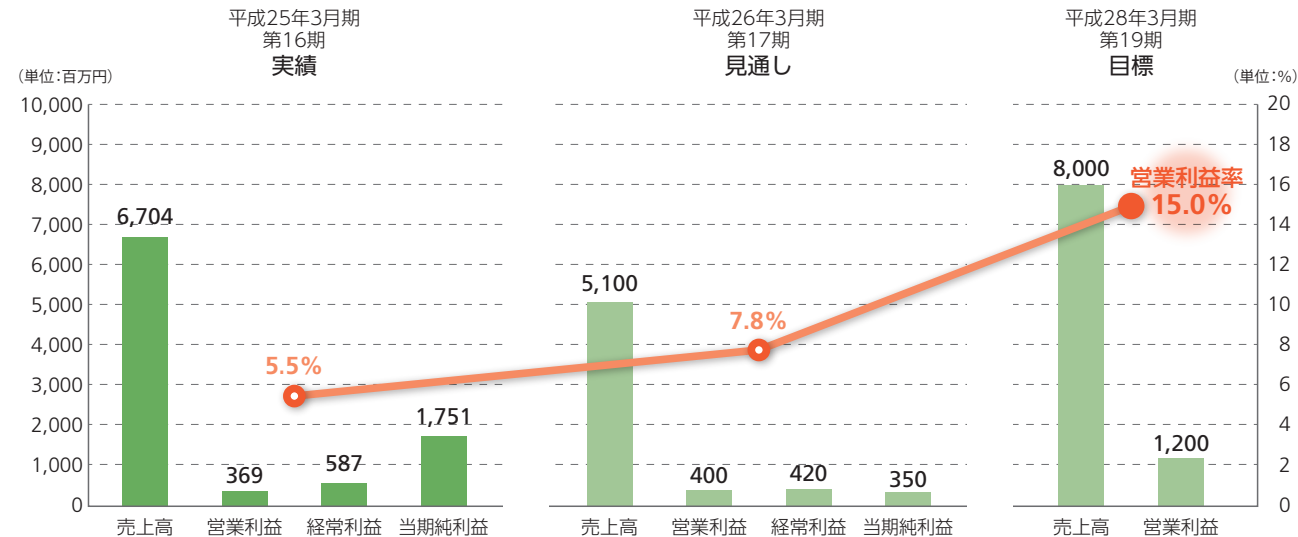
なお、当期は当期純利益を確保したものの、継続した企業価値の向上および経営基盤の強化のために内部留保の充実を図りたく、配当を見送らせていただいております。

■ 次期の業績見通し

SMO事業を中心にアジア・オセアニア地域を軸としたグローバル戦略、再生医療/遺伝子治療を核とした事業領域拡大戦略、人材育成・交流戦略を推し進めてまいります。以上のことから、次期の業績見通しにつきましては、連結売上高5,100百万円(前期比23.9%減)、営業利益400百万円(前期比8.2%増)、経常利益420百万円(前期比28.5%減)、当期純利益350百万円(前期比80.0%減)を見込んでおります。

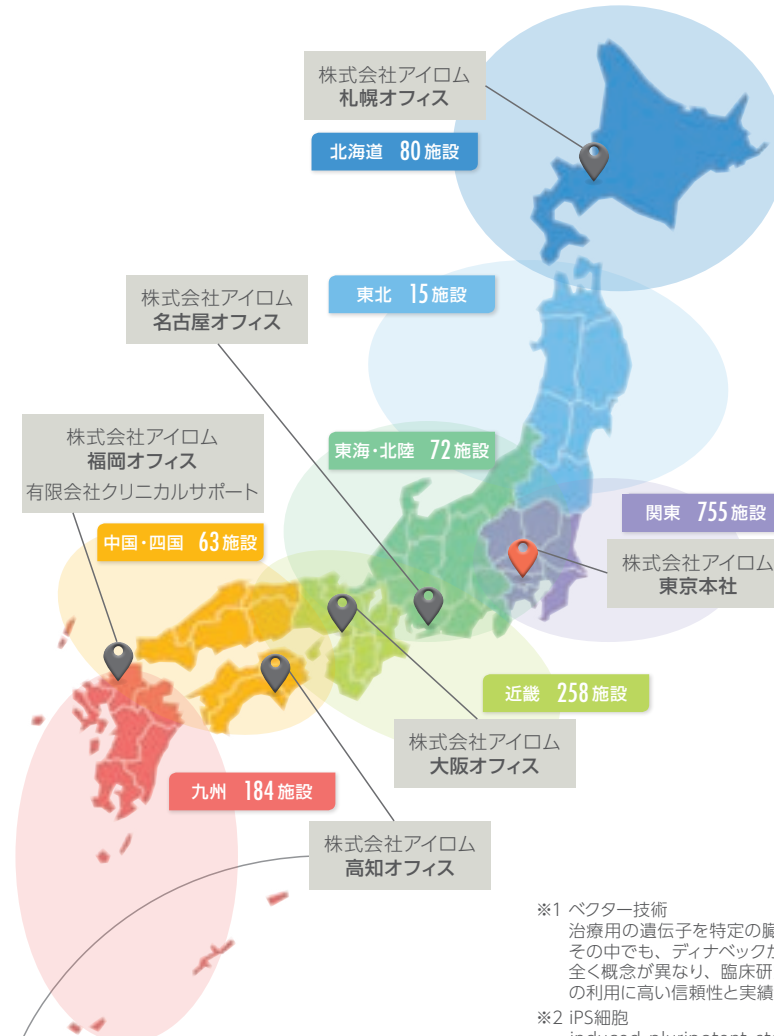
※ハイブリッド型サービス

①日本国内市場では、当社グループの基盤であるSMO事業を中心とした臨床研究/臨床試験の促進につき高品質な支援を提供するサービス。
②グローバル市場(特に、アジア・オセアニア地域)では、各種業務提携を通じ、SMOノウハウを各国法令等に準拠した形でCRO業務と併せて製薬企業および医療機関に提供するサービス。



国内の事業展開

SMO事業における提携施設数は1,427施設となりました。



有限会社クリニカルサポートが当社グループに加わりました。

九州地区において医療機関と広範なネットワークを構築している有限会社クリニカルサポート。感染症領域、精神神経領域、骨疾患領域に強みを有し、福岡県を中心にSMO事業を展開しています。当社グループは、平成25年3月4日に同社の全株式を取得しました。

有限会社クリニカルサポート プロフィール

所在地: 福岡県福岡市中央区天神一丁目1番1号

設立: 平成13年8月

資本金: 3百万円

売上高: 282百万円(平成24年7月期)

ディナベック株式会社と戦略的パートナーシップ契約を締結しました。

高性能かつ安全性の高いベクター技術※1を用いた遺伝子創薬と、iPS細胞※2関連技術を基盤とした細胞治療や再生医療の研究開発並びに事業化を目的としているディナベック株式会社。先端技術を利用した細胞・再生医療等の研究開発促進のために、当社グループのビジネスノウハウを提供してまいります。

ディナベック株式会社 プロフィール

所在地: 茨城県つくば市大久保6番

設立: 平成15年9月

資本金: 30百万円

※1 ベクター技術
治療用の遺伝子を特定の臓器・組織に運搬し、効果的に標的細胞内へ導入する働きを持つ物質。その中でも、ディナベックが独自に開発した「センダイウイルスベクター」は、従来のベクターとは全く概念が異なり、臨床研究や動物実験を通じ安全性が高く、遺伝子医薬品やバイオ製品分野での利用に高い信頼性と実績を有しております。

※2 iPS細胞
induced pluripotent stem cell(人工多能性幹細胞)であり、体細胞に特定遺伝子を導入することにより樹立される幹細胞のことで、ヒト等の動物のあらゆる組織、細胞に分化する能力を持っています。京都大学の山中伸弥教授がノーベル賞を受賞された革新的技術です。

アジア・オセアニア地域における±2時間戦略

新たな価値を世界へ提供するための体制を構築しています。



内資の製薬会社の臨床試験支援および コンサルティング (欧米への進出のサポート)

提携 ① ▶ Linear Clinical Research Limited (オーストラリア)

提携 ② ▶ Info Kinetics Sdn. Bhd. (マレーシア)

提携 ③ ▶ IDT Australia Limited (オーストラリア)

IDT Australia Limited から 第三者割当増資を引受けました。

CMO事業^{※1}・CRO事業^{※2}を展開し、オーストラリア証券取引所に上場しているIDT Australia Limited。現在は、CRO事業を主力事業として、国内外の製薬企業および提携医療機関との連携を通じ、オーストラリア国内において確固たるプレゼンスを築いています。
当社は、オーストラリアにおいて強固なアライアンスの構築を実現すべく、平成25年5月10日に同社から第三者割当増資を引受けました。

— IDT Australia Limited プロフィール

所在地：45 Wadhurst Drive, Boronia, Victoria 3155, Australia

設立：1986年2月11日

資本金：15百万オーストラリアドル

売上高：9百万オーストラリアドル (2012年6月期)

※1 CMO事業

医薬品製造受託機関。企業から受託して、医薬品製造を代行する機関を指します。

※2 CRO事業

医薬品開発業務受託機関。治験依頼者（製薬企業）の治験に関わる業務の全部または一部を代行および支援する企業を指します。

NNA.Asia(アジア・オセアニアの経済ビジネス情報誌)に掲載されました。
詳しくは、当社WEBサイト「メディア情報」をご覧ください。

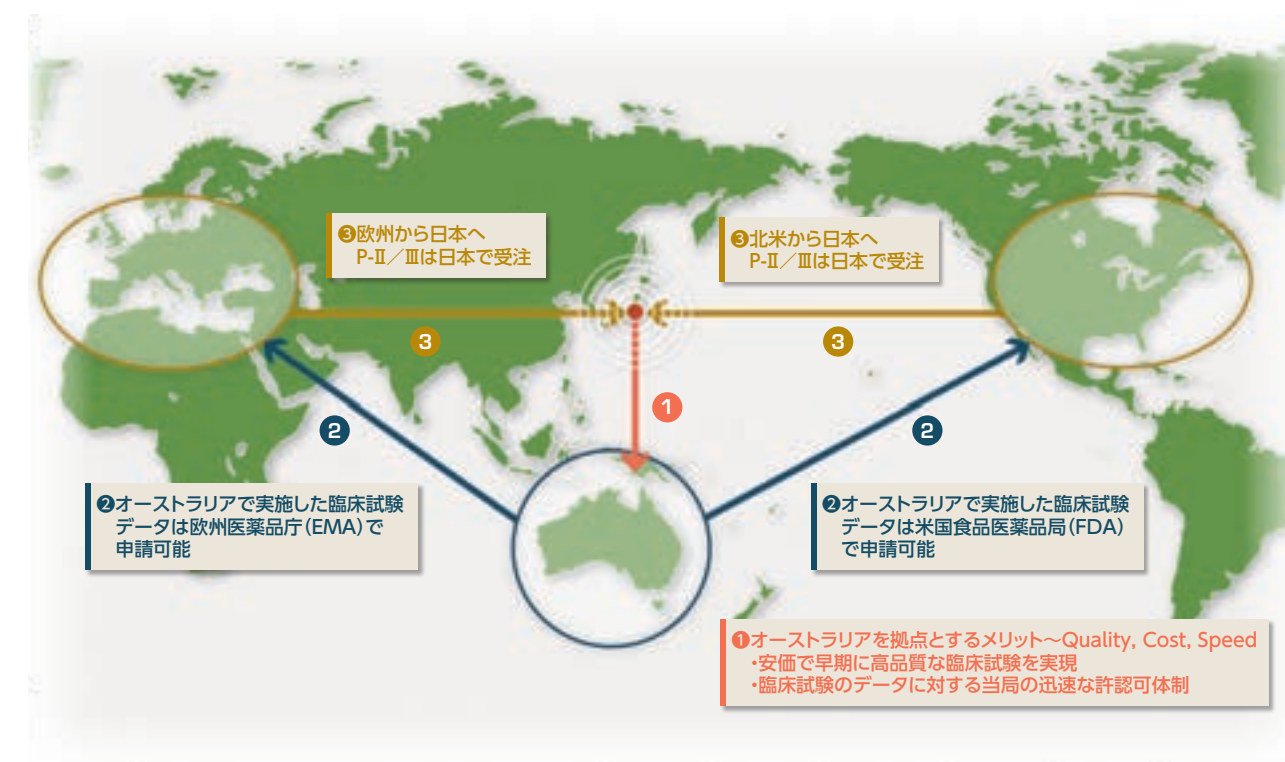
アイロムホールディングス

検索

<http://www.irom-hd.co.jp>

ハイブリッド型サービスの提供

日本で培ったSMOノウハウをCRO業務とあわせて提供してまいります。



当社グループは、海外への進出を望んでいる日本国内の製薬会社に、オーストラリアでの臨床試験実施についてのサポートを実施してまいります。

オーストラリアでは、臨床試験のデータに対する当局の迅速な許認可体制が整っていること、オーストラリアで実施された臨床試験のデータが、クオリティ、コスト、スピードにおいて優位性があり、欧州医薬品庁(EMA)および米国食品医薬品局(FDA)に申請が可能なおことから、当社グループでは、

日本国内の製薬会社によるオーストラリアにおける臨床試験実施の環境作りを進めております。

また、日本国内の製薬会社がオーストラリアで実施したP-Iの臨床試験データを欧州医薬品庁(EMA)または米国食品医薬品局(FDA)に申請後、P-II、P-Ⅲの臨床試験を日本で実施する流れを提供することで、当社グループのSMO事業の活躍の場も広げていく考えです。

連結財務諸表(要約)

連結貸借対照表

科 目	平成24年3月31日現在 第15期	平成25年3月31日現在 第16期
資産の部		
流動資産	2,522	4,231
現金及び預金	803	1,926
売掛金	591	1,061
その他	1,129	1,259
貸倒引当金	△ 2	△ 16
固定資産	3,473	1,601
有形固定資産	2,641	874
建物及び構築物	1,509	465
土地	1,094	367
その他	37	41
無形固定資産	72	38
投資その他の資産	758	687
投資有価証券	5	181
長期貸付金	4,327	661
差入保証金	693	422
その他	448	399
貸倒引当金	△ 4,715	△ 977
資産合計	5,996	5,832

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

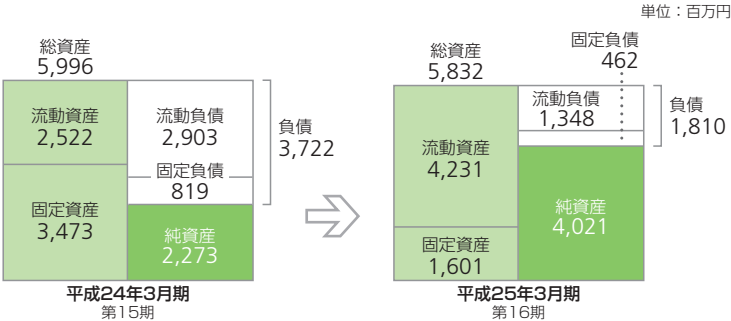
(単位：百万円)

科 目	平成24年3月31日現在 第15期	平成25年3月31日現在 第16期
負債の部		
流動負債	2,903	1,348
買掛金	504	92
短期借入金	1,175	—
前受金	574	517
預り金	410	240
その他	238	499
固定負債	819	462
負債合計	3,722	1,810
純資産の部		
株主資本	2,257	4,008
資本金	6,286	6,286
資本剰余金	7,577	7,577
利益剰余金	△ 11,606	△ 9,855
その他の包括利益累計額	0	△ 0
新株予約権	15	13
純資産合計	2,273	4,021
負債純資産合計	5,996	5,832

財務から見るポイント(連結)

飛躍のための
安定した財務体質

- 現金及び預金の大幅増加
- 有利子負債の解消



連結損益計算書

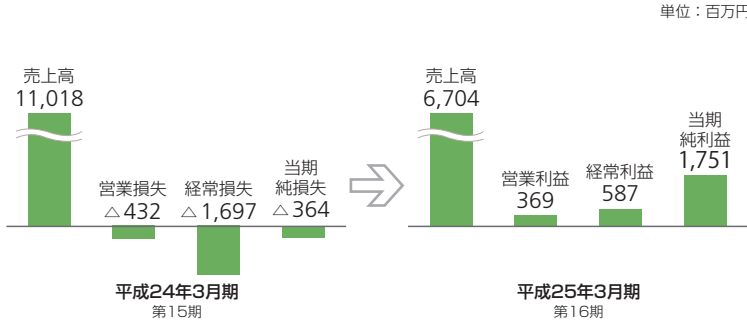
科 目	平成23年4月 1 日から 平成24年3月31日まで 第15期	平成24年4月 1 日から 平成25年3月31日まで 第16期
売上高	11,018	6,704
売上原価	8,389	4,602
売上総利益	2,628	2,102
販売費及び一般管理費	3,061	1,733
営業利益または営業損失(△)	△ 432	369
営業外収益	400	675
営業外費用	1,666	458
経常利益または経常損失(△)	△ 1,697	587
特別利益	2,159	1,216
特別損失	598	18
税金等調整前当期純利益または 税金等調整前当期純損失(△)	△ 137	1,785
法人税、住民税及び事業税	20	92
法人税等調整額	194	△ 58
少数株主損益調整前当期純利益または 少数株主損益調整前当期純損失(△)	△ 353	1,751
少数株主利益	11	—
当期純利益または当期純損失(△)	△ 364	1,751

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

業績から見るポイント(連結)

利益の大幅な改善

- SMO事業における大型治験案件の獲得、人員配置を含めた業務効率の改善およびコスト圧縮による営業利益増
- 医薬品等の販売事業の譲渡益等による当期純利益増



連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	平成23年4月 1 日から 平成24年3月31日まで 第15期	平成24年4月 1 日から 平成25年3月31日まで 第16期
1 営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 101	△ 625
2 投資活動によるキャッシュ・フロー	2,525	2,868
3 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,303	△ 1,175
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 15	48
現金及び現金同等物の増減額	105	1,115
現金及び現金同等物の期首残高	698	803
連結の範囲変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	—	4
現金及び現金同等物の期末残高	803	1,922

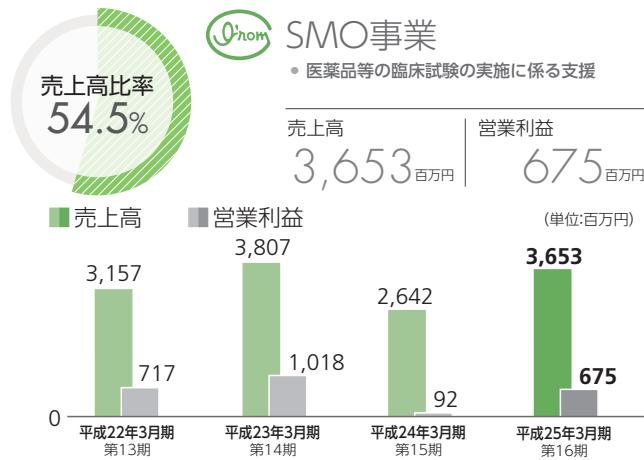
(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

- 1 主な増加要因: 税金等調整前当期純利益の計上が1,785百万円、減価償却費の計上が111百万円等
主な減少要因: 売上債権の増加460百万円、たな卸資産の増加454百万円、仕入債務の減少412百万円等

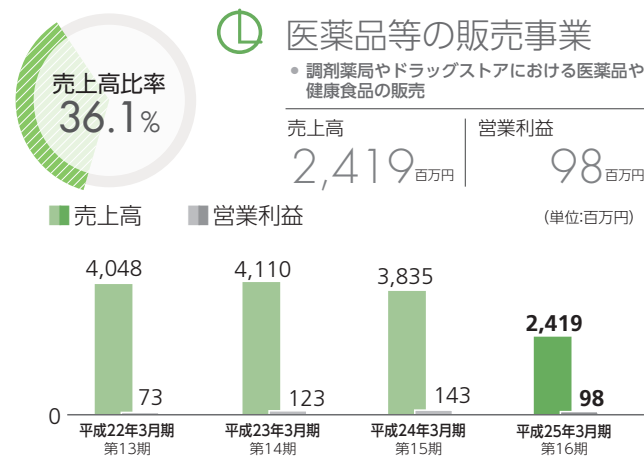
- 2 主な要因: 有形固定資産の売却による収入2,230百万円、医薬品等の販売事業の譲渡による収入1,594百万円等

- 3 主な要因: 借入金の返済1,175百万円等

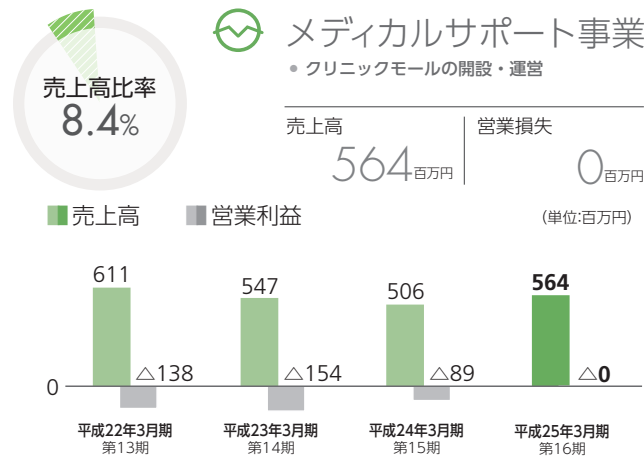
セグメント別の概況



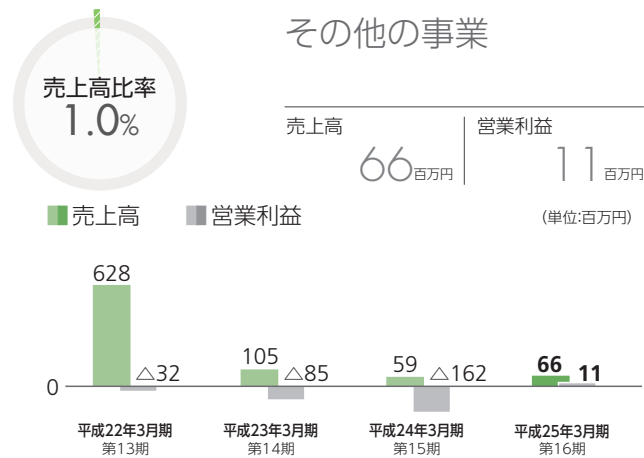
- ・泌尿器科、呼吸器科、皮膚科、ならびに癌といった疾病領域の受託が拡大し、循環器系を中心とする内科領域における数千例規模の国際共同検証試験などの大型案件が順調に推進
- ・プリファードベンダー指定による安定した受託拡大を実現
- ・グローバルジェネリックメーカーからのジェネリック医薬品開発の優先的受託などが増加
- ・医師主導治験・国際共同臨床研究の大学からの支援要請が拡大
- ・増収増益



- ・平成24年12月1日付にて事業譲渡
- ・収益寄与は平成24年11月30日まで



- ・不採算事業の改善
- ・既存モールの収益力向上
- ・増収赤字幅減少



- ・介護用品の販売等の事業収入
- ・増収増益

会社の状況 (平成25年3月31日現在)

会社概要

会社名 株式会社アイロムホールディングス
設立年月日 1997年(平成9年)4月9日
資本金 6,286百万円
本社所在地 〒102-0071 東京都千代田区富士見2-14-37
連結従業員数 302人
上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部
会計監査人 あらた監査法人
連結子会社 株式会社アイロム
株式会社アイロムメディック (他10社)

経営体制 (平成25年6月27日現在)

代表取締役社長 森 豊隆
取締役 犬飼 広明
取締役 松島 正明
取締役 加藤 親明
社外取締役 角台 利和
社外監査役(常勤) 佐々木秀次
社外監査役 尾田 友志
社外監査役 森住 恵二

株式の状況

発行可能株式総数 3,728,168株
発行済株式の総数 935,142株
株主数 15,375名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
森 豊隆	475,425	50.83
森 利恵	82,500	8.82
日本証券金融株式会社	12,979	1.38
小林 令明	8,721	0.93
須田 忠雄	8,000	0.85
森 龍介	7,500	0.80
マネックス証券株式会社	6,838	0.73
アイロム従業員持株会	4,235	0.45
林 能昌	4,000	0.42
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口2)	3,772	0.40

所有者別株式分布

※比率は、各株主が所有する株式数の割合です。

